

月1回開院、修理ボランティア おもちゃドクター大活躍

弘 前

「弘前おもちゃ病院」は壊れたおもちゃを修理する県内唯一のボランティア団体だ。2008年に弘前市の会社員小山内忍さん(37)が設立し院長を務める。現在は市総合学習センターで月1回2時間開院し、津軽地域だけでなく八戸市や県外からも依頼者が訪れる。市内外の催しで出張修理する機会も増えており、子どもたちの笑顔を励みに活躍の場を広げている。
(大沢幸治)

子ども笑顔が励み 八戸、県外からも依頼者

「エコ」活動でも注目

修理を担当するのは「おもちゃドクター」。特別な資格は必要なく、小山内院長は東京在任時に娘のおもちゃを直したことをきっかけにドクターになった。電気回路の知識など職業経験が、電池を入れても音が出ない。弘前市の看護師会津まゆみさん(55)が孫に使わせようと持ち込んだ。孫の母親である娘のために10年ほど前に買ったもの。「娘もこのおもちゃに思い出があるの、使えるなら使いたい」

「回路の線が細かったり、修理することを念頭に置いて作られていない」と指摘する。ドクターは、おもちゃの中身が映す世情も見つめる。活動が定着し本年度の修理件数は1月時点で昨年年度の190件を上回り200件を超えた。

持ち主の思いっなぐ
今年1月の開院日。テー

たい」

「プラスチック面のこすれで、かすができ、引き出しの動きを邪魔していた。かすを取り去り解決」

20〜30年前のおもちゃが持ち込まれることもあるが、「モーターを直せば動くものが多い。むしろ昔の方が作りが良く直しやすい」と小山内院長。一方、最近のものは「使い捨て」の作りが目立つという。倉光俊夫さん(62)はいけます」



治療に精を出す「弘前おもちゃ病院」のドクターたち=1月

おもちゃ病院

日本おもちゃ病院協会(東京)によると、同協会会員のドクターが開くおもちゃ病院は全国約310カ所にある。不用品回収も行っている。原則無料だが、弘前おもちゃ病院では部品交換の場合、代金50〜300円、受付日に直せない内容の場合は入院費100円が必要。ドクターや、サポート役のナースも随時募集している。問い合わせは同病院(電話0172-288557、ファクス同288558)へ。